ボランティア・市民活動情報紙

あすぴあ通信

2013.3
32号

発行：小平市民活動支援センター あすぴあ

1面：山崎章郎さん講演会 報告
2～3面：あすぴあの一年をふりかえって
国際交流関係団体の交流会 報告
4面：平成24年度小平市市民協働講座
報告ほか

山崎章郎さん講演会

地域の中でホスピスケアを ケアタウン小平の取り組み

開催しました

2013年2月16日(土) 午後2時～4時
小平市福祉会館 小ホール
講師：山崎章郎さん(ケアタウン小平クリニック院長、NPO法人コミュニティケアリンク東京 理事長)

山崎章郎（ふみお）さんは、地域でのホスピスケアを始めたきっかけから話しました。学生時代、北杜夫の『ドクトルマンボウ航海記』に憧れて北洋のサケ・マス母船や南極海地質調査船などの船医として働いたこと、また、船医時代にE・キューブラー・ロスの著書『死ぬ瞬間』に出会ったことから、桜町病院のホスピス医師になりました。

山崎さんはホスピスで学んだこととして、5つのことを挙げました。ひとつは苦痛症状緩和の大切さ。痛みから解放されると人には余裕が出ます。次に、嘘をつかないことが大切だと説明しました。3つ目は、チームケアの大切さ。4つ目は、ボランティアとの協働の大切さです。

ボランティアに車椅子を押してもらって散歩に出掛けられた日は、「生きててよかった」とその人は思います。5つ目として、生きる意味を見失ってしまった人々へのケア（スピリチュアルケア）が大切だと、山崎さんは話しました。

開場してまもなく座席が満員となりました

山崎　章郎 さん

山崎さんのクリニックがある、ケアタウン小平は小さな社会そのものです。24時間対応の訪問看護ステーション、デイサービス、NPO法人コミュニティケアリンク東京、株式会社の訪問介護ステーション、いっぷく荘という名のアパートもあります。そして、このケアタウン小平に関わる人たちの会がいくつもあります。ご遺族交流会、ケアタウン小平スタッフとボランティア交流会、子育て支援の一環としてのデイサービスでの「幼児英会話教室」（いずれも無料）などです。中庭では、子どもたちがサッカーをする姿が見られます。山崎さんは、「わたしたちが在宅でお手伝いした方たちが、今度はわたしたちをお手伝いしてくださる」と話しました。毎年秋には、ケアタウン小平応援フェスタを開いて、「生きててよかったね」という想いがひとつになります。そして最後には、参加者の願い事が入った風船を空へ飛ばして見送ります。

山崎さんたちは、「最期まで人権が守られ、尊厳と自立を持って暮らせることを保障するコミュニティ」をめざして活動しているというお話でした。

「一度は講演を聞きたい」という市民からの問合せが市報掲載後からひきもきらず、あすぴあは対応に追われました。当日の駐車場も会場前だけでは足りず、市役所の駐車場を借りました。会場までお越しいただきましたのに、座席がいっぱいで入場できなかった皆さま方にお詫び申し上げます。